

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1970200125		
法人名	メディカル・ケア・サービス株式会社		
事業所名	愛の家グループホーム山梨小原西		
所在地	山梨県山梨市小原西641-7		
自己評価作成日	2017/9/28	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/19/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	山梨県社会福祉協議会		
所在地	甲府市北新1-2-12		
訪問調査日	平成29年10月24日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

事業所は全国に約280ヶ所の拠点でグループホーム事業の展開をしており、県内に7棟の事業所がある。認知症ケアのリーディングカンパニーを掲げ、ご入居様が安心して楽しく過ごせるよう日々職員は笑顔を大切に関わっている。認知症状の緩和のため、タクティール・ケアを職員が取得し日常的に行える体制を整え、入居者様の不安を安心に変えその人らしい生活の支援に努めている。また、地域行事へのお誘いもあり地域住民として参加しご近所の方々と気軽に関わられるような関係性の構築に力を入れていきたい。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

全国にグループホームを展開しており、山梨県内には7事業所がある。事業所は2階建て住宅地の一角にあり、畑や果樹園もあり静かな環境の中にある。7事業所それぞれが地域性を活かした取り組みを行っている。事業所独自のビジョンを掲げて、利用者に生きる希望と笑顔を届けられるよう利用者を中心に考えて支援に取り組んでいる。手のひらを使って相手の手足や背中を包み込むように触れながら行う緩和ケア「タクティール・ケア」を職員が取得し、利用者が安心して生活できるように努めている。市から委託された「ほっとスペース事業」は事業所を活用してもらい認知症の方とその家族の皆さんの悩み等相談できる交流の場としている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらい <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらい <input type="radio"/> 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と <input type="radio"/> 2. 家族の2/3くらいと <input type="radio"/> 3. 家族の1/3くらいと <input type="radio"/> 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある <input type="radio"/> 2. 数日に1回程度ある <input type="radio"/> 3. たまにある <input type="radio"/> 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように <input type="radio"/> 2. 数日に1回程度 <input type="radio"/> 3. たまに <input type="radio"/> 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている <input type="radio"/> 2. 少しずつ増えている <input type="radio"/> 3. あまり増えていない <input type="radio"/> 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> 2. 職員の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 職員の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> 2. 家族等の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 家族等の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

事業所名 **愛の家グループホーム山梨小原西**

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(たいう)	ユニット名(にじ)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	運営理念を掲示しており、毎朝の朝礼時唱和し職員間で共有している。	朝礼時、会社の運営理念を唱和している。ホームのビジョンも常に目に入るようにし、方向性を示し実践に繋げている。	会社の運営理念の他に事業所として「その人が送りたい生活を送ってもらう」をビジョンとしている。運営理念は、朝礼時に唱和し、ビジョンは事務所内やトイレの目に付きやすい場所に掲示して意識づけがされている。日々利用者に関わる際、実践に繋がるよう努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	市で行っている【地域元気あつぷ教室】への参加をしたり、ホームを知ってもらうための行事のイベントなど案内文を配布したり交流を行っている。地域のお祭りの時には駐車場を休憩所にもしてもらい交流を行っている。	ホームの納涼祭では地域に開催の案内を配布し参加して頂いている。地域のお祭りや子供クラブの行事も関わっている。	日常の散歩時に畑仕事をしている人達が声をかけてくれたり、野菜や花等のおすそ分けがある。自治会に加入している事業所オーナーから、地域の情報が得られ、参加できる行事等に職員と一緒にいき、地域の人たちとも交流している。また、事業所の駐車場を御神輿の休憩所として地域に開放している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	事業所から発信することによって、認知症に対する偏見等を除去出来るように取り組んでいる。	地域で行う催し物には積極的に参加している。山梨市地域支援事業を通し、グループホームとしての相談、認知症の理解などを寸劇で行い分かりやすい認知症サポーター講座などを行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	自治会には加入していないが、地域住民の方から情報を頂いたり情報交換の場として活用し質の向上(職員の接客向上)に努めている。	意見交換している。	2か月に一度、27日と決めて夜間に開催している。会議には、利用者がお茶を運び、家族、区長、民生委員、市担当職員、市包括職員、地域住民が参加している。事業所からは、取り組んでいる内容や利用者の様子について報告し、参加メンバーから質問、意見、要望をもらい検討して反映出来るよう努めている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	上記の運営推進会議への参加依頼や参加時の情報の共有、居宅支援事業所連絡会などを通じて情報の交換に努めている。	日頃、連絡を取り合っている。	市主催の計画作成担当者会議が2か月に一度あり、担当職員が出席している。また、市の委託で認知症サポーター講座やポスティングや広報で呼びかけて、地域の認知症の方とその家族の皆さんとの交流事業としてストレッチ教室を開催するなど、事業所を活用してもらい職員や利用者との交流も図っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	一時性・切迫性・非代替性の原則を理解し、言葉による抑制にも気を付けている。	全体会議に於いて研修課題にし、意識を高めている。会社全体で【虐待、不適切ケア、身体拘束防止の取り組み】として、2ヶ月毎にチェックシートを活用し職員同士で振り返りを行っている。強化月間の時はケアの心得を唱和し取り組んでいる。	毎月全体会議の中で本社から送られてくる、身体拘束に関する動画を見て研修している。また、2か月毎に「やってはいけないこと」のチェックシートを活用して職員同士日々のケアを振り返りチェックしている。4か月毎に実施している強化月間では、3項目あるケアの心得を唱和している。利用者の行動を制限するような言葉づかいには気をつけて、職員間で注意している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	上記と同じ内容で全社的に取り組んでいる。行動抑制をしない事も含めて、サービス内容に明記するなど全体で取り組んでいる。	全体会議に於いて研修課題にし、意識を高めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	全体会議時に於いて、研修の場を設け権利擁護やプライバシー保護、倫理及び法令順守についても理解を深めている。	全体会議に於いて研修課題にし、意識を高めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約前の説明と同意を受け、契約に至っている。疑問や曖昧な事がないよう確認を行い信頼関係の構築に努めている。	契約には2時間程の時間を要する。一方的ではなく、どんなことでも気軽に言える環境づくりに努め、理解・納得をしていただけるよう努めている。		

自己評価および外部評価結果

事業所名 **愛の家グループホーム山梨小原西**

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(たいう)	ユニット名(にじ)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	毎年ご家族様アンケートを実施し去年と改善されているかの評価など行っている。本社からのフィードバックを基に課題や対策をあげ取り組んでいる。これらの結果を運営推進会議や事業所の全体会議などで周知共有をしている。	ご家族様アンケートを実施して、頂いた意見や要望を取り入れて入居者様へのサービスに活かしている。	毎年、本社が実施している家族アンケートがあり、家族が直接本社に送り、本社から結果が送られてくる。家族等の面会時や病院への受診時に声掛けをして何でもしてもらえるようにしている。タンスの中の衣類の整理をしてほしいとの要望があり、シールを張って何が入っているか本人に分かるようにした。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎年職員アンケートを実施。スタッフからの意見の収集の機会としている。毎年2回、管理者は全職員と個別面談し働きやすい職場環境に努めている。	職員アンケートや個人面談の実施により、一人一人のスタッフと話しが出来る環境を整え、提案があれば会議時などに皆で話をしている。	毎年、本社が実施している職員アンケートもあるが、自己評価を基に管理者との個人面接を年2回実施している。掃除用具を揃えて欲しいとの要望があり補充したりと、職員の意見や要望を運営に反映している。また、全職員が出席できるよう会議時間の見直しをとる意見があり、職員と検討して改善した。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	上記にあるように、管理者は職員と話す機会を設け、各自がやりがいをもちて働けるよう努めている。	上記同様、働きやすい環境づくりに努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	ホーム内研修はもとより、外部の研修にも参加できる。山梨県の愛の家職員対象に合同研修を行っている。勉強会であったりレクリエーションであったり内容は様々である。	法人内外の研修が有るときは、全職員にアナウンスし希望をとり機会の確保に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	居宅支援事業所連絡協議会などを通じて情報交換や地域交流として管理者が外に出向き、共有されたものは職員に周知したりサービスの質向上に努めている。	ホットスペース事業で地域の方々との関係作りにも努めています。		
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居審査でご本人様の状況のアセスメントや生活歴の収集を行い、スタッフ内で共有している。入居してからは入居者様から発する言葉に耳を傾け言葉の意味合いを理解しそれに対する対応を心掛けている。	入居前に入居審査の実施、ご本人様の状況のアセスメントや生活歴の収集を行い、スタッフ内で共有し対応できるようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	施設見学の時点で時間を設け、ご家族の不安事など話せる環境を作っている。相談があった時は、いくつか提案をさせて頂き納得して頂けるように努めている。	施設の見学や、その時点で不安や要望等の話が出来るように対応している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	計画作成担当者が作成した介護計画を介護支援専門員がチェックし、その後管理者がチェックし支援の見極め・サービス内容の確認を行い最善な対応が実施出来るよう努めている。	介護計画を作成しご本人様一人一人に最善な対応が出来るように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員が「散歩へ行きましょう」「体操しましょう」などと誘ってしまう時がある。入居者様の反応を見ながら対応することで、選択してもらい共に過ごしている気持ち高める支援に努めている。	入居者様の出来る事を職員間で会議時などに共有し生活の中で行ってもらうことで、一緒に生活をしているという気持ちになって頂いている。		

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己評価および外部評価結果

事業所名 **愛の家グループホーム山梨小原西**

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(たいよう)	ユニット名(にじ)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族へ毎月お便りを配信し、様子をお伝えしている。面会時は、今の状態状況を伝えながら対応や相談等行いお互いが安心できる関係性の構築に努めている。	面会などはご本人とご家族の絆が深まる大切な時間と考え、ご家族が足軽く来所出来る対応を心掛けている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家具等、今までで生活されてきた物を持ち込みの説明をさせて頂き安心できる環境の提供を心掛けています。	ご本人様との会話の中で話題として昔の話などお聞きすることがある。	以前住んでいた地域の催しに家族と一緒に参加したり、知り合いが利用している事業所に会いに行くなど、馴染みの場所や人との関係が途切れないよう継続支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様の関係性を理解し入居者様同士で出来る環境を作っている。普段からレクリエーションやイベントを企画し皆で過ごす時間を作り関係性作りを支援している。	散歩時など普段は会話することのない(成り立しない)方向市、手をつないで頂いたり利用者様同士の関わりができるよう努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居時に於いては、次の事業所と一緒に探したり施設への見学同行などし不安や困ったことがないよう関わっている。	居宅のCMや病院の相談員と連携をとり、ご本人様、ご家族の情報共有をすることによりその方の支援を支えようとしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の様子から、入居者様の希望や困りごとと不安はないのか観察し、気付きがあれば会議時に共有し対応の統一を心掛けている。	行動や訴えに対し、その都度対応を考えコミュニケーションを取っている。	日々の利用者同士の会話やかかわりの中で気づいたこと、聞いたことをフロアにある「気づきメモ」に書いている。メモから得たことは会議の中で話し合い、利用者の思いに繋げられるよう職員間で共有している。また、家族等から以前の生活の様子を聞くなど情報を得るようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	契約時に於いてご本人の情報収集などご家族から聞き取りを行っている。これまでの生活の把握を行い通っていたところに継続して出かけられるよう支援している。	入居前の情報共有の他、会話の中でご本人に聞いたことなどは職員間で共有し、その人が送りたい生活の支援に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する方等の現状の把握に努めている	その方のペースに合わせた生活支援を行っている。申し送りを通し職員は入居者様の現状把握に努め、適した対応を行なっている。	その方の出来る事、出来ない事をアセスメントにより拾い出し現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月1回、各ユニット会議があり職員の意見交換の場となっている。統一した声掛けや、統一した対応など周知共有も行っている。	計画作成担当者、ユニットリーダーが担当職員に聞き取りをしたり、ご家族の要望や意見を確認したりその方に即したケアプラン作成に努めている。	入居時に利用者、家族の意向を入れて1か月の暫定プランを作成し、3か月毎にユニットリーダー・利用者担当職員の評価を基に話し合い見直している。また、往診医の食事制限等の意見をプランに入れて介護計画を作成している。状況の変化に応じて介護計画の見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	モニタリングは毎月行い、3ヵ月毎ケアプランの見直しを行っている。	個別サービスの日々のチェックにより、気づきを行い会議時や申し送り等共有を図っている。状態に変化があればプランの見直しを行っている。		

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己評価および外部評価結果

事業所名 **愛の家グループホーム山梨小原西**

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(たいう)	ユニット名(にじ)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	個別での外出や受診の支援を行っている。ニーズの拾い出しがまだ甘いと感じるので今後力を入れていきたい。	ホーム以外にも、外部での支援サービス(受診対応)を利用している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	市で行っている元氣あつぷ教室など参加など積極的にやっている。	ホームから歩いて行ける距離にコンビニエンスストアが有り散歩がてら買い物を楽しんでいる。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	様々な受診の形がある。往診医とは24時間、365日常に連絡がとれる体制になっている。	かかりつけ医からのアドバイスを頂き家族への説明も行い医療機関への受診対応を行っている。	入居前からのかかりつけ医のほか往診医を本人や家族が希望するかかりつけ医としている。受診は家族対応になっているが不可能な時は職員が対応している。受診結果は受診記録に記入して職員間で情報の共有をしている。また、毎週訪問看護師が来て、利用者の体調を見守りながら支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に1回の健康チェックの他、傷の処置などアドバイスをもらったりしている。24時間、365日連絡はとれる。受診等、情報共有を行い、早めの気付き・早めの受診体制を行っている。	毎週火曜日に訪問看護を利用し入居者様の相談を行い、情報を得たりアドバイスをもらい健康管理に努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	情報交換に努め、より良い関係作りを行っている。入院中、担当CMや相談員とも連絡を密にとりスムーズな動きになるよう努めている。	入院時には上司や職員が面会へ行き、医療機関との情報共有に努め関係性をとっている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	事業所で出来る事を家族等に説明し最善を尽くしている。契約時には、別紙にて説明・同意を得ている。全体会議等、研修を行ない終末期の考え方や対応など周知共有を行っている。	ご家族に現状を説明し、今後どのような事を望んでいるかなど確認を行いそれに合わせた支援となるよう努めている。	契約時に看取りについて家族に説明し意向を聞いている。退院後に事業所で看取りを希望する家族にはその都度確認しながら、本人や家族の意向を踏まえ親族からも同意が得られるようにしている。医療行為を行なわない看取り時には、家族が寝泊まりして関係者と共に支援に取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	応急手当や対応等の訓練に参加し向上できる様努めている。緊急対応マニュアルをフロアに設置している。	事故急変時のマニュアルを基に研修を行ったり、会議で一人一人の急変をシミュレーションしたり急がず慌てないで対応が出来るようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害時のマニュアルをフロアに設置したり、避難訓練など出来る方法・避難誘導の手順を学んでいる。	年に2回避難訓練を実施している。1回は夜間想定で行う。普段から外に出たりする時も、どの位の時間を要するかを情報収集の意識でしている。	年2回、消火、通報、避難誘導訓練を実施し、1回は夜間を想定して訓練を行っている。職員は、日頃から災害時のイメージをして避難、誘導ができるよう取り組んでいる。また、利用者が避難するのにどの位の時間を要するのか、日頃から行動を意識している。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人一人の人格や性格などを把握できるようコミュニケーションをとり声掛け出来るよう努力している。	心配事や入居者様がどうしても話を聞いて欲しい時は、個人の部屋へ移動しじっくり話を聞いています。安心できるようにその方の気持ちに寄り添って優しい言葉で話をしている。	利用者の居室に入る時は声をかけてから入るようにしている。フロアでは利用者の個人的な事を話さないように気をつけ、排泄の誘導時にも言葉かけに注意している。また、スタッフの申し送り等、個人の情報がある為、配慮しながら行っている。利用者に関する書類は事務所で管理している。	

自己評価および外部評価結果

事業所名 愛の家グループホーム山梨小原西

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(たいよう)	ユニット名(にじ)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	都度声掛けはしているが、自己決定できない方は職員が決めてしまっている。	好きな事は自由にできる空間を作ったりして日常生活が出来るよう働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員が「散歩へ行きましょう」「体操しましょう」などと誘ってしまっている。	職員都合になる時もありますが一人一人を一番に考え希望に沿って支援しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	できる方には[くし]を渡し髪をとかしてもらったり服を選んでもらうが、出来ない方は介助している。	外出時はその人にあつた身支度を行い気持ち良く生活できる様に支援しています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	好みには応じていないが、片づけ出来る方にはして頂いている。	フロア調理の時はみんなで行き、楽しくできるような会話を多く行っています。	1か月分の献立が本社から送られてくる。食材は職員が買い物に行き、調理専門の職員が作っている。利用者の好みや苦手なものを把握して、献立を変更する時もある。2階ユニットの利用者が御膳が入ったワゴンを職員と一緒に持ちに来て運んでいる。職員も利用者と同じテーブルを囲んで食事をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	お茶をおやつ、ご飯の際に提供し少ない方はポカリスウェットなどを提供している。	食事摂取がなかなか摂れない方については補食としてゼリーやプリンなど提供し、こまめな水分摂取に心掛けています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	行なっている。ポリデントなど週に最低2回は消毒するなど口腔ケアの意味を理解し支援している。	食後の後は声掛けし残食のないよう支援している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	その人のパターンでトイレ誘導を行う。布パンツの方、布パンツにパット使用、リハパンの方、リハパンにパット使用など様々である。	時間帯でのトイレ誘導を行い、失敗しないよう関わっている。	排泄チェック表を使用し、利用者に合わせて時間誘導してトイレで排泄できるよう支援している。夜間はおむつを使用している利用者も、日中は使用しないで、誘導してトイレで排泄できるよう介助している。リハビリパンツやパットの大きさも一人ひとりに合わせた対応に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	運動など体を動かしたり、水分摂取を気にかけてたりなるべく服薬しないよう努めている。	散歩に出かけたり水分摂取を促したり個々に応じた予防を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	ほぼ、午後1時間間の空いた方から優先にしている。	気分がいい時はフロアでのコミュニケーションを取ったり入居者様の清潔を保っている。	毎日、午後から準備ができています。基本的には2日に1回とし、希望があればいつでも入浴することができる。入浴していない日が続いた利用者を優先して、タイミングを計り入浴を促している。利用者、一人ひとりのカゴがありシャンプー、リンス、ボディソープを入れて個々に使用している。	

自己評価および外部評価結果

事業所名 **愛の家グループホーム山梨小原西**

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(たいよう)	ユニット名(にじ)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	支援している。	毎回眠れない方には、耳元で声のトーンを抑え「何にも心配しないでゆっくり休んで下さいね」と安心してもらうなど気持ち良く眠れるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	全員が飲んでる薬を全て理解していない。	何のための薬なのかを把握し、服薬情報は共有し変更があった時は申し送り支援に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者様一人一人が、全員楽しめることは毎日出来ていない。	一人一人の好みを把握し、それぞれに合った支援を行い楽しく生活できるよう努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外に出れるよう支援しているが、本人の希望を把握できていない。	ラーメンやお寿司が食べたいという入居者様の家族に、希望を伝えるとご家族が応じてくれ外食に出掛けました。それから、ホームでも希望を聞いて一緒に外食に出掛けるようになりました。	天気の良い日には、午前中近所を散歩し、車イスの利用者も自立歩行が可能な利用者が押して一緒に行っている。2か月に一度くらいは外食にも出掛け、利用者の好みの食事をしている。会社の運動会や納涼会には家族にも呼びかけ参加している。また、季節を感じるお花見や花火祭り等に出掛けるなど、外出支援に努めている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物に行った時、支払いが出来る人にはしてもらっている。購入の希望があれば、一緒に買い物に出掛けている。	お財布は事務所で預かり管理しているが、買い物等支払時は入居者様にお財布を渡し、支払いをしてもらっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	機会はなく支援できていない。	電話をかける等の要望があれば、事務所の電話を使用してもらっている。手紙のやり取りなどはないが、年賀状を出すなど季節がわかるよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	静かな環境を考え、不快にならないよう心掛けている。中庭に野菜を植えたり季節感を取り入れている。	物をあまり置かず、安全に動ける環境にしたり花を飾りゆったりくつろげる雰囲気作り心掛けている。	1階と2階の2ユニットで行き来はエレベーターを使用している。利用者が日中過ごしているフロアには、テレビやソファ、ダイニングテーブル、書棚が置かれている。廊下の突き当りには、木のベンチが設置され、座って景色を見ながらくつろぐことができる。フロアの飾りも行事の写真等飾り過ぎず、落ち着いた感じでゆったり過ごしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアにソファを置き、くつろげるスペースを工夫している。	食堂とリビングの区切りをつけるなど、自由に過ごせる環境作りを心掛けている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人が使用していたものを持ち込んでいただき、居心地良く過ごせるように配置を考えている。	写真を飾ったり、一人一人が居室で安心して過ごせるように整えている。	居室は洗面台、エアコンが完備してある。ベット、寝具や整理ダンス、椅子、テーブル等が持ち込まれ、それぞれの利用者の居心地の良い居室になっている。どの居室もあまり飾り過ぎず、歩行時に妨げにならないよう配慮した居室となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレの場所や居室がわかるようにしている。個人の物は共有スペースに置かずフロアで管理している。	動きやすい動線を確認し、わかる言葉で伝えたり困惑の無いよう配慮を心掛けている。		